

## Z120b 生活・文化・天文学史の文脈を活かした学校天文教材の開発

富田晃彦（和歌山大学）

この発表は天文学史そのものの研究ではなく、天文学史を含めた文化・生活の文脈を活かした学校での授業を意識した天文教材の開発についての中間報告である。多くの教師、特に小学校教師が理科そして天文分野の授業に対して苦手意識を抱いていることが繰り返し指摘されている。一方、文化や生活に関わる文脈を取り入れ、教科や分野を横断する「横断性ある教材」への教師の側からの期待がいくつかの調査から示されている。では、横断性のある教材は実際に教師の苦手意識を軽減しうるのか。この問題に答える前に、Astronomy Day in Schools プロジェクトで共有されてきた横断性ある天文教材のアイデアを整理し、学校での授業を意識した教材にまとめる作業を行っている。Astronomy Day in Schools プロジェクトは IAU の Commission C1 での活動の一つで富田が共同代表を務めており、Commission C5 の活動とも関連している。2021 年から活動を開始し、多くの国の教師や生徒から教材のアイデアが紹介され、それらは (i) 自然と人々の暮らしをつなぐもの、例えば季節の巡りや日時計などを活用したもの、(ii) 歴史や文化遺産の理科につなげるもの、例えば古代建造物や都市の設計、年中行事やその起源、祭り、食文化など、(iii) 現代社会課題と関連付けたもの、例えば光害、地域でのサービス・ラーニング、国際的な協調涵養など、の3つに大別できている。天文学史を含めて天文文化の分野の学校の授業を意識した教材開発はこれからという段階である。Astronomy Day in Schools プロジェクトの教材としてのまとめはまだ中間段階だが、ルーマニアを始め他の国の教師と協働してまとめた教材案のいくつかを紹介し、天文学史を含めた天文文化の学校の授業での活用について議論したい。